

# マラリア対策 初の協力隊

## ワクチン開発へ 県庁で抱負



ガーナへの派遣を前に抱負を語る湯口貴聡さん(中央)＝8日午前、県庁

愛媛大院・湯口さんガーナ派遣

愛媛大と国際協力機構(JICA)四国センターが6月に締結したガーナへの

のマラリアなどの感染症対策支援に関する覚書に基づき、最初の協力隊員が14日

から派遣される。出発前に隊員が8日、県庁を訪れ、田中英樹副知事に意気込みを語った。

派遣されるのは愛媛大学院理工学研究科の湯口貴聡さん(30)。同大のプロテオサイエンスセンターで大学が独自に開発した「コムギ無細胞タンパク質合成技術」を使い、マラリアワクチン開発に向けた研究に取り組んでいる。

派遣期間は10月13日までの1カ月。ガーナの野口記念医学研究所で現地の研究員に対してコムギ無細胞の研修を行い、協働でワクチンや診断薬の研究を行う。

湯口さんは「1年目の隊

員なので来年度以降につながる基盤となる活動をした」と抱負。田中副知事は赴任先で愛媛をPRする「えひめ海外協力大使」を委嘱し「安全と健康に気を付けて、有意義な時間を過ごしてほしい」とエールを送った。

湯口さんは取材に「どの

ように感染が広がっているのかを自分の目で確かめ、効果の高いワクチンの実現につなげたい」と話した。現地での活動では、愛媛大発ベンチャー企業「セルフリーサイエンス」が寄贈した試薬を活用する。

(増田有梨)

2023年9月9日付愛媛新聞(総合)

掲載許可番号:d20230912-01